



数か月の作業のすえ姿を現した黒坂城の石垣。黒坂駅からも確認できる

地元の誇り、 黒坂城を守りたい

黒坂城跡再発見活動グループ「黒坂鏡山城下を知ろう会」

城下町、黒坂のまちを見下ろすようにそびえていた黒坂城。

今では建物もなく、うっそうと木が茂る城跡にその痕跡を残すのみ。
人々の記憶からもだんだんと失われつつあります。

そんな中、まちの歴史遺産である黒坂城をなんとか保存しようと、
まちの有志によるグループ「黒坂鏡山城下を知ろう会」による

再発見活動が続いています。

6月9日に行われた作業の様子を取材しました。



切り出した木や竹を手分けして運び出す

▼築城の歴史



当時の黒坂城（県立博物館蔵）

慶長15（1610）年、伊勢亀山の領主、関一政が黒坂の地に転封となり、その居城として同17（1612）年に黒坂城の建設が始まりました。

黒坂城（鏡山城）が建てられていたのは、現在の日野高校黒坂校舎グラウンド山手側の一帯で、黒坂から下菅、下黒坂が一望できる所に位置しています。

城の建設当時、現在の黒坂は原野で住む人もなかったと言われており、城の建設に合わせて城下町として

黒坂のまちもつくられていきました。その名残は、まちを南北に貫く玉島街道や、碁盤の目状に整備された道路など、現在の黒坂のまちにも残っています。

黒坂城は慶長19（1614）年に完成、関氏の入城により黒坂は日野郡の中心地として発展していきました。

忘れられかけた城の記憶
住民の手で再発見を

時代は移り、城跡付近が現在のグラウンドに整備されるなど、城の存在を物語るものや城跡をよく知る人も少なくなり、辺りは竹やヒノキに覆われてしまっていました。

そんな中、なんとか城跡を調査・保存したいと、平成18年3月から町ボランティアセ

ンターと住民有志による石垣付近の草刈り・伐採作業が始まりました。

当時作業を行ったのは黒坂住民を中心とした町民ボランティア数人。月2回程度の作業でも、石垣が姿を現すまで伐採するのに5か月程度がかかったとのこと。

城を囲んでいた石垣は、原型をとどめているものは少なく、多くは自然災害などで崩れているものがほとんど。伐

採には、風通しを良くして土が柔らかくなるのを防ぎ、石垣が崩落しないようにする目的もあります。

この6月には住民が中心となって、再発見活動を行うグループ「黒坂鏡山城下を知ろう会（牧智也会長）」を結成し、9日の作業には、会員ら9人の住民ボランティアが参加しました。

伐採した竹の枝切りをしていた長内利江さん（黒坂）は、「外に出る作業は気分転換になるし楽しみ。しゃべって作業すれば2時間はあつという間。いいストレス解消になりますね」と作業を楽しんでいる様子。



作業初期から関わっている長内さん

大工の宇田春男さん（黒坂）はチェーンソーで伐採に専念。「子どものころはよくこの城跡で遊んでいました。当時はこんなに木も生えておらず石垣もきれいに見えていました



宇田さんは大工の経験を生かして参加

よ。今はグラウンドになっていますが昔は沼地で、グラウンド整備のときもよく覚えています。今は気が向いたときに短時間でも伐採作業をコツコツと続けています」と話します。

切り出した木を利用して作業道を作っていた「知ろう会」事務局の西古尚史さん（黒坂）は、「私が子どものころは城跡は畑になっており、私にとつてはその下が遊び場でした。去年から作業に参加しましたが、石垣が顔を出したとき

は、私が子どものころは城跡は畑になっており、私にとつてはその下が遊び場でした。去年から作業に参加しましたが、石垣が顔を出したとき



自作の杭を打ち込む西古さん

▼ボランティア募集

「黒坂鏡山城下を知ろう会」では、黒坂城跡の伐採・草刈りを手伝っていただけるボランティアを募集しています。

趣旨に賛同いただける人ならどなたでも参加できます。

作業は主に月1回～3回程度ですが、参加できるときだけの参加でかまいません。

多くの皆さんの参加をお待ちしています。

■申込み・問合せ
日野町ボランティアセンター（電話 74-0117）
または、日野町文化センター（電話 72-1300）